

VISTA 8 ユーザーレポート

広島テレビ放送株式会社 様

VISTA 8



S-SUB のメインコンソールに VISTA 8 を導入



広島テレビ放送株式会社
技術局 中継技術部
小西 雅人

S-SUB について

HTVでは地上波デジタル放送開始を控えて、今年11月からデジタルマスターならびにHD対応サブS-SUBが稼動しました。S-SUBは、制作するほとんどの番組形態が生放送であり、デイリーの情報番組からプロ野球を始めとするスポーツ中継まで幅広い対応が求められました。サラウンド制作のため増加する入出力回線の制御、地上波デジタル化対応に向けたN-1システムの構築、音声フォーマットの多様化に対応するためのメインコンソールとしてVISTA 8を導入しました。

VISTA 8 選定にあたって

HTV音声チームは以下の理由でVISTA 8を選択しました。

1. デジタル OR アナログ

ほとんどの番組形態が生放送であるS-SUBのコンソールを選定するにあたって、最も重要なのがコンソールの安定性でした。

デジタルコンソールの安定性を疑問視する声も挙がりましたが、システムの簡略化、柔軟性、今後の拡張性を重視し、万が一に備えて様々な部

分の2重化、バックアップ体制を施すことでデジタルコンソールでシステムを構築することに決定しました。

2. 視覚・操作面

更新前は、カスタムメイドの国産アナログコンソールを使用しており、視覚・操作面においてアナログコンソール感覚でミキシング出来ることも重要でした。候補に挙がったコンソールの中でも、VISTA 8は各フェーダーの状態がひと目で確認でき、Vistonicsによるオペレーションは視覚・操作面に優れていました。

3. 柔軟性・多様性

インプット、アウトプットでのフルルーティングが出来ることで、多様化する音声フォーマットへの柔軟な対応が可能なことも重要な要素でした。また、VISTA 8ならではのL2スイッチを使用することで、一つのレイヤーを有効利用でき、柔軟なオペレーションが可能でした。ローカル局では各番組に音効さんがいないため、USERスイッチを利用した音源のスタート、ストップなどGPIOボードを使用した制御も重要でした。

4. エマージェンシー対応

大手メーカー以外支店のない地方のローカルテレビ局にとって、不具合が発生した時の対応も

非常に重要な要素です。コンソールの選定中に、広島までデモ機を運んで頂いて弊社でデモが出来た時、対応の早さを実感しました。

5. 実績

国内における導入実績が伸びていることも大きな要因です。台数が出ないとなかなかバグも見つけられず、順調にバージョンアップしていきません。また、そのユーザーの多くが放送局であることも安心できる要素でした。この点では、VISTAシリーズは信頼に値する導入実績を持ち合わせていました。

6. デザイン性

番組を制作する上で、創造意欲を掻き立てられるコンソールのデザイン性も重要な要素だと考えています。VISTAシリーズのデザイン性は秀逸だと思います。

OAを体験して

導入したばかりで、これから音を作りこんでいく段階ですが、初めてのOAで実感したのが位相特性の良さや周波数特性の広がりです。操作性に関しては、数日触っているだけで随分慣れました。今後、5.1chサラウンド制作にも積極的に取り組み、広島発の音を全国に向けて発信できるようVISTA 8を活用していきます。